

西三川砂金山の保存と活用に向けた

取り組みを紹介しします

市では世界遺産登録に向けて佐渡金銀山※に関係する遺跡や建物、町並みなどの文化財の調査・整備事業を行っています。今回は、西三川砂金山のある笹川集落での市の取り組みを紹介しします。

※西三川砂金山、鶴子銀山、相川金銀山など島内の主な鉱山を総称して、佐渡金銀山といっています。

西三川砂金山とは

西三川砂金山は、佐渡最古の砂金山で、平安時代後期の「今昔物語集」に登場する産金の舞台になった場所と考えられています。この地域では山を削り、水を利用した「大流し」といわれる技術によって砂金を採っていました。砂金山は明治5年に閉山しましたが、現在も砂金採掘の遺構が残されているほか、笹川集落の人々は生業を鉱業から農・林業へと替え、今も集落を維持しています。



たてのこしやま
立残山と笹川集落の景観

取り組み① ～国の重要文化的景観選定～

文化的景観とは、人が暮らし、生業を育む中で、その地域の自然や地形を巧みに利用して生み出されてきた景観のことです。

西三川砂金山を含む周辺のエリアが、平成23年に国の重要文化的景観に選定されました。現在は、この景観を守り受け継ぐために、歴史的建造物の修理や修景などを行っています。



砂金取り体験の様子

取り組み② ～旧西三川小学校笹川分校を拠点施設として活用～

文化的景観の重要な構成要素（建造物）になっている笹川分校は、集落の人々が通う学校や行事の場として活用されてきました。この建造物の保存と来訪者が集落を散策する際の拠点施設として活用するため改修を行いました。今後、西三川砂金山に関する解説パネルを展示し、ガイドツアーをはじめ、さまざまなイベントの拠点としても活用していきます。



改修後の旧西三川小学校笹川分校